

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）共同獣医学研究科 獣医学専攻（D）

1. 獣医専修コースの在り方（入試方法、カリキュラムなども含めて）について明確に説明すること。（要望意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

(要望意見)

1. 獣医専修コースの在り方（入試方法、カリキュラムなども含めて）について明確に説明すること。

(対応)

・入試方法について

獣医科学コース及び獣医専修コースは共通の入学試験（成績証明書並びに外国語、専門科目及び口頭試問からなる学力検査の結果を総合評価する。）によって入学者の選抜を行い、学生は入学時にいずれかのコースを選択する旨を書き加える。

・カリキュラムについて

獣医専修コースでは、獣医科学コースと同様に、共通科目のうち共同教育科目（14単位）及び専門教養科目（3単位）並びにコース科目（10単位）を履修し、先進的研究を遂行して学位論文を作成する必要があることが明確になるように記述を改め、及び書き加える。

また、獣医科学コースと獣医専修コースのカリキュラムの違いとして、獣医科学コースでは、共通科目のうち先端実践科目（学術集会における研究成果の発表、所属大学以外の国内外研究機関での研究を単位認定する科目）（3単位）を履修するのに対して、獣医専修コースでは、共通科目のうち特別専修科目（専門医／専門家資格認定試験の受験資格となる「特定の学術分野における学会発表及び科学雑誌への公表」を求めるとともに、「専門家として必要な技能習得及び実務経験」を付与する科目）（3単位）を履修することが明確になるように記述を改め、及び書き加える。

併せて、獣医専修コースでは、修了時に博士の学位を取得できることに加えて、研究科在学中の特別専修科目の履修又は研究科終了後のレジデント期間を経て専門医／専門家の資格を取得することができ、これは他の獣医学系大学院にはないプログラムであることを書き加える。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>P. 5 研究者養成プログラムにおいて、国内外研究機関研修や学会発表等を通じて先端的な学術研究を体感させて各自の研究を遂行し、学位授与にあたっては国際学術誌への公表を義務化し、世界トップレベルの獣医学研究を推進する。またAAALAC International（国際実験動物ケア評価認証協会Association for Assessment and Accreditation of Laboratory Animal Care Internationalの略）認証制度、及びCITI（Collaborative Institutional Training Initiativeの略）Japan Programを通じて高い生命倫理と研究者倫理の醸成を促すとともに、特別講義・演習を通じて教育者・研究者としての幅広い知識と教養、論理的思考を修得させる。これに実験動物医学専門医、病理学専門家、または臨床専修医としての理論と実践力を教授する高度獣医学専門家養成プログラムを<u>他</u>の獣医学系大学院に先駆けて構築し、教育理念の達成を図る。</p>	<p>P. 5 研究者養成プログラムにおいて、国内外研究機関研修や学会発表等を通じて先端的な学術研究を体感させて各自の研究を遂行し、学位授与にあたっては国際学術誌への公表を義務化し、世界トップレベルの獣医学研究を推進する。またAAALAC International（国際実験動物ケア評価認証協会Association for Assessment and Accreditation of Laboratory Animal Care Internationalの略）認証制度、及びCITI（Collaborative Institutional Training Initiativeの略）Japan Programを通じて高い生命倫理と研究者倫理の醸成を促すとともに、特別講義・演習を通じて教育者・研究者としての幅広い知識と教養、論理的思考を修得させる。これに実験動物医学専門医、病理学専門家、または臨床専修医としての理論と実践力を教授する高度獣医学専門家養成プログラムを<u>加</u>え、教育理念の達成を図る。</p>

P. 9～P. 11

共同獣医学研究科では、両大学の立地環境と地域性に特徴的な教育研究資源を活用した教育課程を編成する。山口大学では伴侶動物獣医学及び公衆衛生学に関連した特徴ある教育プログラムを、鹿児島大学では産業動物獣医学及び動物衛生学に特徴ある教育プログラムを相互提供して、大学院教育の質の向上と学問領域の拡大を図る。

上記を実現するために次の2コースを設ける。

1) 獣医科学コース

基礎獣医学、応用獣医学、及び臨床獣医学を配し、先進的な研究を通じて我が国における次世代の欧米水準の獣医学教育を担う高度な研究者養成コースである。

2) 獣医専修コース

「新時代の大学院教育／平成17年9月中央教育審議会」や「平成26年度獣医学教育の改善・充実に係る調査研究協力者会議」における提言を勘案し、実験動物の健康と福祉、動物実験倫理、動物実験施設管理を担う実験動物医学専門医、高度な病理学的診断の知識と技術を修得して病性鑑定や疾病診断を通じて公衆衛生獣医学や臨床獣医学領域で活躍する病理学専門家等の高度獣医学専門家、及び先端・高度な動物医療を担う指導者としての獣医療人を養成するコースである。

(資料⑤ 共同獣医学部と共同獣医学研究科における教育課程の関係図 参照)

いずれのコースも共通の入学試験(成績証明書並びに外国語、専門科目及び口頭試問からなる学力検査の結果を総合評価する。)によって選抜を行い、学生は入学時にコース選択を決定する。獣医専修コースから獣医科学コースへの転コースに制限はないが、獣医科学コースから獣医専修コースへの転コースには、各専門医／専門家としての認定試験の受験資格となる一定の修業期間を大学院の就学期間内に満たす場合に限り可能となる。共同教育科目、専門教養科目、及び研究推進科目は両コースに共通の必修科目、先端実践科目と特別専修科目が選択必修科目となっている。獣医科学コースでは、先端実践科目(幅広い領域の学術集会における研究成果の発表、または所属大学の共同獣医学研究科以外の国内外研究機関での指導を

P. 9～P. 10

共同獣医学研究科では、両大学の立地環境と地域性に特徴的な教育研究資源を活用した教育課程を編成する。山口大学では伴侶動物獣医学及び公衆衛生学に関連した特徴ある教育プログラムを、鹿児島大学では産業動物獣医学及び動物衛生学に特徴ある教育プログラムを相互提供して、大学院教育の質の向上と学問領域の拡大を図る。

「獣医科学コース」は、基礎獣医学、応用獣医学、及び臨床獣医学を配し、先進的な研究を通じて我が国における次世代の欧米水準の獣医学教育を担う高度な研究者養成コースである。加えて、「新時代の大学院教育／平成17年9月中央教育審議会」や「平成26年度獣医学教育の改善・充実に係る調査研究協力者会議」における提言を勘案し、実験動物の健康と福祉、動物実験倫理、動物実験施設管理を担う実験動物医学専門医、高度な病理学的診断の知識と技術を修得して病性鑑定や疾病診断を通じて公衆衛生獣医学や臨床獣医学領域で活躍する病理学専門家等の高度獣医学専門家、及び先端・高度な動物医療を担う指導者としての獣医療人を養成する「獣医専修コース」を編成する。(資料⑤ 共同獣医学部と共同獣医学研究科における教育課程の関係図 参照)

共同獣医学研究科の教育課程には、共通科目とコース科目を設けている。共通科目は、獣医科学コース及び獣医専修コースに共通した2つの科目群(共同教育科目14単位、専門教養科目3単位)と、各コースに選択的な先端実践科目または特別専修科目(3単位)から構成され、いずれも両大学の教育研究資源を活かして体系的な履修を可能とする。コース科目は、研究指導教員が開講する共同教育科目の特別講義と研究推進科目である特別演習・実験からなる(計10単位)。共同教育科目及び研究推進科目は、両大学の教員が開講する各研究部門に関連した講義、演習、実験科目を通じて、専門性の高い授業を行う。専門教養科目は、博士課程において高度な獣医学の技術と知識を修得する際に、必ず身に付けなければならない研究者としての行動規範、倫理、知的財産の管理、及び英語力について、学部教育をさらに発展させた授業を行う。先端実践科目は両大学の立地環境を活かして国や地方の研究機関並びに海外の

<p>単位認定する科目)を履修するのに対して、<u>獣医専修コースは特別専修科目を選択しなければならない。特別専修科目は、専門医／専門家認定試験の受験資格要件である「専門家として必要な技能修得及び実務経験」を付与するとともに、学位論文の骨子となる研究論文を各専門医／専門家協会が指定する学会へ発表、及びレフリー制度の確立した指定学術雑誌に筆頭著者論文として公表することで単位認定を行う。</u>すなわち、<u>獣医専修コースは、各専門医／専門家としての実務を積み上げて各種受験資格を得るだけでなく、獣医科学コースと同様、専門家としての先進的研究を遂行して学位論文を作成しなければならない。修了判定には、両コース共に、同一の修了要件単位数の修得と学位論文の提出を求める。</u></p>	<p>教育研究機関等の連携協力を仰ぐ。これらの科目を体系的に履修させる指導体制を充実し、<u>学生が履修する専門分野の基礎的素養の涵養を図り、さらに自らの研究の社会的意義付けを意識させる内容とする。特別専修科目は、国内に整備された各種専門医資格の認定に求められる実践的能力を培うための授業科目として、獣医科学コースにおける共通科目の先端実践科目に代わって履修する。</u></p>
<p>教育課程には、共通科目とコース科目を設けている。</p>	
<p>1) 共通科目</p>	
<p><u>獣医科学コース及び獣医専修コースに共通した2つの科目群（共同教育科目14単位、専門教養科目3単位）と、各コースに選択的な先端実践科目または特別専修科目（3単位）から構成され、いずれも両大学の教育研究資源を活かして体系的な履修を可能とする。</u></p>	
<p>① 獣医科学コース</p>	
<p><u>先端実践科目（学術集会における研究成果の発表、あるいは所属大学の共同獣医学研究科以外の国内外研究機関での指導を単位認定する科目）を選択履修する。両大学の立地環境を活かして国や地方の研究機関並びに海外の教育研究機関等の連携協力を仰ぐ。これらの科目を体系的に履修させる指導体制を充実し、学生が履修する専門分野の基礎的素養の涵養を図り、さらに自らの研究の社会的意義付けを意識させる内容とする。</u></p>	
<p>② 獣医専修コース</p>	
<p><u>特別専修科目（専門医または専門家資格認定試験受験資格の条件となる「特定の学術分野における学会発表及び科学雑誌への公表」を求めるとともに「専門家として必要な技能及び実務経験」を付与する科目）を選択履修する。国内に整備された各種専門医資格の認定に求められる実践的能力を培うための授業科目として、獣医科</u></p>	

<p>学コースにおける共通科目の先端実践科目に代わって履修する。</p> <p>2) コース科目</p> <p>研究指導教員が開講する共同教育科目の特別講義と研究推進科目である特別演習・実験からなる(計10単位)。共同教育科目及び研究推進科目は、両大学の教員が開講する各研究部門に関連した講義、演習、実験科目を通じて、専門性の高い授業を行う。専門教養科目は、博士課程において高度な獣医学の技術と知識を修得する際に、必ず身に付けなければならない研究者としての行動規範、倫理、知的財産の管理、及び英語力について、学部教育をさらに発展させた授業を行う。</p>	
<p>P. 12～P. 14</p> <p>実験動物医学専門医資格取得のために、日本実験動物医学専門医協会が定める認定審査(資格審査と認定試験)に合格することを目指す。研究科在学中には、資格審査基準(獣医師免許を保有し、出願時に3年以上継続して日本実験動物医学会会員として実験動物医学専門医資格単位基準を履修すること)を満たすための特別専修科目(実験動物医学専門医養成プログラム)を設定する。山口・鹿児島両大学は、AAALAC International認証に対応できる動物実験施設を有しており、同施設における実験動物医学専門医となるための実務を履修させることができる強みがある。具体的には、同専門医協会による認定試験の出題分野となる実験動物(小動物ならびに中・大動物)の解剖学、生理学、感染症学、麻酔科学、発生工学、及び動物福祉学における基本的図書の理解を深めるとともに、動物実験施設における実験動物の獣医学的ケアの実務経験を積む。また、同専門医協会及び日本実験動物医学会の主催するシンポジウムならびにウェットハンド研修会に規定回数(2回)以上参加させる。また学位論文の骨子となる研究論文は、同専門医協会が指定する学会、及びレフリー制度の確立した学術雑誌に筆頭著者論文として公表させる。特別専修科目の履修後、認定試験を受験して実験動物医学専門医資格を取得する。この資格は、大学における実験動物学における教育者としてだけでなく、創薬等を行うライフサイエンス企業において安全性試験等のために行われる動物実験を担当できる専門獣医師として、社会ニーズが非常に高く、獣医学に特殊性のある資格となっている。同専修コースは、特別専修科目履修後に認</p>	<p>P. 11～P. 13</p> <p>実験動物医学専門医資格取得のために、日本実験動物医学専門医協会が定める認定審査(資格審査と認定試験)に合格することを目指す。研究科在学中には、資格審査基準(獣医師免許を保有し、出願時に3年以上継続して日本実験動物医学会会員として実験動物医学専門医資格単位基準を履修すること)を満たすための特別専修科目(実験動物医学専門医養成プログラム)を設定する。山口・鹿児島両大学は、AAALAC International認証に対応できる動物実験施設を有しており、同施設における実験動物医学専門医となるための実務を履修させることができる。特別専修科目の履修後、認定試験を受験して実験動物医学専門医資格を取得する。この資格は、大学における実験動物学における教育者としてだけでなく、創薬等を行うライフサイエンス企業において安全性試験等のために行われる動物実験を担当できる専門獣医師として、社会ニーズが非常に高く、獣医学に特殊性のある資格となっている。</p>

定試験の受験資格を得ることができ、同試験に合格すれば、修了時に博士の学位と実験動物医学専門医資格の両方を取得できるという有利なコースである。

**日本獣医病理学専門家協会会員資格取得のために、**日本獣医病理学専門家協会が定める会員資格認定試験受験ガイドラインにしたがって、受験資格を満たすための特別専修科目を構成する。認定試験受験のためには、獣医病理学に関する専門的研究または専門的職業に3年以上従事しなければならないことから、研究科在学中の特別専修科目において病理診断の実務及び研究を実施させる。具体的には、同専門家協会による資格試験の基準となる獣医病理学、毒性病理学、免疫病理学、分子病理学の基本的な知識の取得および過去3年間の関連する学術論文の理解とともに、病理診断に必要な様々な知識と能力を評価するための鏡検試験に対応できる病理組織診断の能力を培い、その経験を深める。同専門家協会規約に定める研究及び研修歴に加えて、指定された研究会や同協会主催セミナーに規定回数(3回)以上参加させる。学位論文の骨子となる研究論文は、レフリー制度の確立した学術雑誌の獣医(実験動物学及び毒性学を含む)病理学分野に関する筆頭著者論文として公表させる。特別専修科目を履修した後、認定試験を受験して日本獣医病理学専門家協会会員資格を取得する。この資格は、臨床獣医学における病理診断医として求められるだけでなく、食肉検査学等の応用獣医学における、マクロ病理学の標準化・高度化、製薬・創薬における実験病理・毒性病理等の基礎獣医学にも寄与することが期待される資格である。同専修コースは、特別専修科目履修後に認定試験の受験資格を得ることができ、同試験に合格すれば、修了時に博士の学位と病理学専門家資格の両方を取得できるという新たなコースである。

**臨床獣医学における専修医養成のための特別専修科目では、**研究科在学期間中に両大学の附属動物医療センター及び動物病院において臨床専修医としての動物医療を行うことを求める。具体的には、獣医外科学、獣医麻酔学、獣医画像診断学、獣医病理学、獣医内科学、救急医療の専修医教育プログラムを構築し、各診療科が設定する履修項目にしたがって、日々の診療活動を自己研鑽の証拠となるポートフォリオに積み上げる。獣医外科学分野において

**日本獣医病理学専門家資格取得のために、**日本獣医病理学専門家協会が定める会員資格認定試験受験ガイドラインにしたがって、受験資格を満たすための特別専修科目を構成する。認定試験受験のためには、獣医病理学に関する専門的研究または専門的職業に3年以上従事しなければならないことから、研究科在学中の特別専修科目において病理診断の実務及び研究を実施させる。同協会規約に定める研究及び研修歴に加えて、指定される研究会や同協会主催セミナーに規定回数以上参加させる。学位論文の骨子となる研究論文は、レフリー制度の確立した学術雑誌の獣医病理学(実験動物学及び毒性学を含む)分野に関する筆頭著者論文として公表させる。特別専修科目を履修した後、認定試験を受験して日本獣医病理学専門家資格を取得する。この資格は、臨床獣医学における病理学的診断医として求められるだけでなく、食肉病理学等の応用獣医学において、マクロ病理学の標準化・高度化に寄与することが期待される資格である。

**臨床獣医学における専修医養成のための特別専修科目では、**研究科在学期間中に両大学の附属動物医療センター及び動物病院において臨床専修医としての動物医療を行うことを求める。獣医外科学または獣医内科学の専修医教育プログラムを構築し、各診療科が設定する履修項目にしたがって、日々の診療活動を自己研鑽の証拠となるポートフォリオに積み上げる。獣医外科学分野においては、大学院在学期間中に、日本小動物外科専門医協会が定める日本小

は、大学院在学期間中に、日本小動物外科専門医協会が定める日本小動物外科専門医レジデントプログラムへの参加資格となる一般臨床経験に止まらず、レジデントプログラムが求める外科診療科における軟部組織外科や整形外科の手術症例担当及び執刀、麻酔・病理・画像診断の症例の基準に相当する内容を提供する。また学位論文の骨子となる研究論文は、同専門医協会が指定する学会、及びレフリー制度の確立した学術雑誌に筆頭著者論文として公表させる。研究科修了によって博士の学位を取得した後、さらにレジデント期間を経て、認定試験を受験して日本小動物外科専門医資格を取得する。レジデントプログラムに参加している臨床医や大学の研修医等が、専修コースへ修学することによって、学位取得と専門医資格取得に向けて研究室と動物病院でのワークを両立させ、目標到達できる新たな卒後教育プログラムとなっている。専門医制度は、欧米の獣医学教育において常備された卒後教育システムである。

(資料⑦ 獣医専修コース (例、臨床専修医) 参照)

【コース科目：研究推進科目】

研究推進科目は、学生が目指す研究領域において、研究推進のための高度な専門的知識と技術を修得する。この授業科目を履修することにより、学生は多方面からの指摘や意見を取り入れてそれまでの研究内容を「振り返る」ことを行いながら、研究をさらに発展させ、研究指導教員と協力しながら博士論文を作成できるようになる。獣医科学コースでは、各大学の関連研究部門に所属する教員による指導の下、基礎獣医学、応用獣医学、または臨床獣医学研究を推進し、生命科学から医学・獣医学界に及ぶ幅広い研究領域に公表できるように成果をまとめる。一方、獣医専修コースでは、指導医となる教員の下、専門医／専門家としての認定要件となる実験動物学、獣医病理学、または特定の臨床獣医学分野（外科学、内科学等）における先進的研究を推進し、各専門医／専門家協会が指定する学会及び学術雑誌に公表できるように研究成果をまとめる。なお、コース科目には研究指導教員の特別講義の履修も含まれる。またこの特別講義は、共同教育科目と同様に、メディア授業形式で行う、あるいはビデオ・オン・デマンドやE-ラーニングシステムによる受講を可能とする。

動物外科専門医レジデントプログラムへの参加資格となる一般臨床経験に止まらず、レジデントプログラムが求める外科診療科における軟部組織外科や整形外科の手術症例担当及び執刀、麻酔・病理・画像診断の症例の基準に相当する内容を提供する。研究科修了後、さらにレジデント期間を経た後、認定試験を受験して日本小動物外科専門医を取得する。専門医制度は、欧米の獣医学教育において常備された卒後教育システムである。

(資料⑦ 獣医専修コース (例、臨床専修医) 参照)

【コース科目：研究推進科目】

研究推進科目は、学生が目指す研究領域において、研究推進のための高度な専門的知識と技術を修得する。この授業科目を履修することにより、学生は多方面からの指摘や意見を取り入れてそれまでの研究内容を「振り返る」ことを行いながら、研究をさらに発展させ、研究指導教員と協力しながら博士論文を作成できるようになる。なお、コース科目には研究指導教員の特別講義の履修も含まれる。またこの特別講義は、共同教育科目と同様に、メディア授業形式で行う、あるいはビデオ・オン・デマンドやE-ラーニングシステムによる受講を可能とする。